ソーシャリー・エンゲイジド・アート ダイアログ・シリーズ

アーティストは自然・環境・気候危機といかに向き合っているか？

アート＆ソサイエティ研究センターは2014年以降、社会的課題に取り組むソーシャリー・エンゲイジド・アートについての調査、研究、出版、展覧会や研究会の開催、アーティスト支援やプロジェクトの実践を継続しています。今回のダイアログ・シリーズでは、自然、環境、気象変動に関心をもつアーティストが、地球環境における危急の課題にいかに向き合い、自らの創作活動との関わりをどのように捉えているか、生の声で聞き、聴講者と共にディスカッションします。

VOL.5

「未来」を実現する

トリガーポイント理論は、生態系の混乱に秩序を取り戻すアートとしてどのように進化してきたか

登壇者：アヴィヴァ・ラマニ
開催日時：2025年7月31日［木］19:00 ~ 20:45
定員：30名
参加費：無料
会場：ZOOMによるオンライン開催
申し込み・問い合わせ：info@art-society.com
主催：特定非営利活動法人アート＆ソサイエティ研究センター

Socially Engaged Art Dialogue Series

アヴィヴァ・ラマニ｜Aviva Rahmani

アヴィヴァ・ラマニは、アーティストであるとともに、エコアート理論の第一人者であり、国際的に出版、執筆活動を行い展覧会を開催している。最近では、オランダのハーグ国際刑事裁判所で展覧会を開催。また、キプロスのインディペンデント現代美術館、コロラド州のボルダー現代美術館、ニューヨーク州のハドソンリバー美術館、オハイオ州シンシナティの現代美術センター、そして2007年ヴェネツィア・ビエンナーレ（イタリア）のヨーゼフ・ボイス100日間会議パビリオンでも展示を行った。また、NYSCA、NYFA、ポロック・クラスナー財団、A Blade of Grass、NEAからフェローシップを獲得。英国プリマス大学で博士号、カリフォルニア芸術大学で修士号を取得。コロラド州ボルダーにあるコロラド大学北極・高山研究所（INSTAAR）に所属。自身の活動を回想する『Divining Chaos』を執筆し、『Ecoart in Action』（2022年New Village Press刊）を共同編集。